

第4回 品川区まちづくりマスタープラン改定委員会

令和4年8月25日

事務局	<p>委員の皆様には、御多忙のところ御出席を賜りまして、ありがとうございます。</p> <p>会に入ります前に、本委員会は品川区まちづくりマスタープラン改定委員会設置要綱に基づき公開することとしており、本日、3名の傍聴者がおられます。</p> <p>(中略)</p> <p>委員の皆様には、事前に資料を送付させていただき、会議資料を本日お持ちいただいていることと思いますが、念のため資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第、それから、委員名簿、座席表、前回の議事録、資料1並びに資料2でございます。また、本日、A4縦の資料を1枚、机上配布させていただきました。品川区まちづくりマスタープラン改定に係る今後の予定という資料でございます。不足等ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、これより会の進行は委員長に行っていただきます。委員長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>皆さん、おはようございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>では早速、次第に従いまして会を進行していきたいと思えます。まず、次第の1つ目、改定素案についてということで、資料1のように、第1章から第4章までが大分マスタープランの形になってきましたので、これについて、まず事務局から御説明をいただいて、委員の皆様の御意見、御質問を伺いたいと思えます。</p> <p>では、事務局、お願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、お手元の資料1を御覧ください。第1章から4章までの改定素案について御説明させていただきます。</p> <p>資料をおめくりいただき、1-1ページでは、まちづくりマスタープランの役割を、また、1-2ページでは、位置づけを整理し示してございます。</p> <p>次に、ページをおめくりいただき、1-3ページでは、改定の目的を記載してございます。下段の図を御覧いただき、改定まちづくりマスタープランでは、従来のまちづくりの取組を継承しつつ、関連計画との整合を図りながら、記載の新たなまちづくりの視点を加え、次世代の新しい</p>

い魅力・価値を創造する強靱で持続可能なまちづくりを展開していくために、今回改定を行うものでございます。

次に、1－4ページでは、計画期間を2023年度から向こう10年間の計画とし、おおむね10年後には、区の次の20年間のまちづくりを展望する新たなマスタープランを策定するものとしたします。

ページをおめくりいただきまして、第2章、まちづくりのこれまでと今後の展望となります。

2－1、2－2ページでは、まちづくりのあゆみを、特に2－3、2－4ページでは、大名屋敷を引き継ぐ土地利用や木造住宅密集地域の成り立ちなど、整理しておくべき特徴的な市街地の形成をコラムとして記載してございます。

次に、2－5ページ以降2－8ページまでは、まちの魅力と特性・変化を、また、ページをおめくりいただきまして、2－9、2－10ページでは、これまでのまちづくりの主な成果と課題を記載してございます。

駆け足の説明で申し訳ございませんが、次に、資料をおめくりいただきまして、2－11、2－12ページを御覧ください。

前回の骨子案では、この後の第3章で、改定テーマを設けておりましたが、「ひと中心のまちづくり」を掲げておりましたが、このひとを中心とする改定テーマは、いつの時代にも該当する、当然共通するものである、また、前回骨子案の第3章が、キャッチフレーズ的な見え方を含め、非常に分かりにくいとの御意見もいただきました。そうしたところも修正しながら、今回素案としてまとめてございます。

そのため、第2章のまちづくりのこれまでと今後の展望のところ、前回骨子案3章で示していたまちづくりの方向性を、改定計画に反映、加えるべき新たなまちづくりの視点とし、記載し整理してございます。新たなまちづくりの視点としましては、記載のとおり、あらゆる災害に備える、脱炭素社会、技術革新で進化する、新型コロナ危機を経た変革、多様性を育み、活かすとし、この新たなまちづくりの視点、次世代の社会変化に対応できる「質の高い」まちづくりを進めていくこととしてございます。

次に、ページをおめくりいただき、2－13ページでは、質の高いまちづくりのイメージを、また、2－14ページでは、技術革新が支える都市生活の例をコラムとして記載いたします。

次に、13ページ下段のマスタープランとSDGsについては、説明させていただきなごらの修正で申し訳ございませんが、こちらの記載は14ページのコラムの下に記載させていただくということで変更させていただきたいと思っております。

次に、ページをおめくりいただきまして、第3章、目指すまちのすがたでございます。3-1ページでは、区基本構想に掲げる「輝く笑顔住み続けたいまち しがわ」を引き続き目指すべき都市像として掲げております。また、3-2ページでは、区の活発な都市活動を担う駅を中心とした「拠点」とその機能を有機的に結ぶ「都市軸」を基本とする都市構造を、現計画より引き続き位置づけるものでございます。

次ページ以降、3-3から3-6ページにて、それぞれの拠点、都市軸等の内容を示しております。大崎・五反田、また、品川・天王洲アイランド駅周辺は、より広域性のある拠点として広域活性化拠点と位置づけ、また、大井町、品川シーサイド、目黒駅周辺は、それぞれ、区を中心核として、また、交通結節拠点として、また、区の臨海部と内陸部を結ぶ拠点としての役割、機能から、都市活性化拠点として位置づけております。

次に、武蔵小山駅周辺は、区の西の玄関口として地区活性化拠点として位置づけ、旗の台や戸越銀座駅周辺などは、日常の生活圏の中心として、地域生活拠点として位置づけております。

なお、今回の改定計画では、中延駅周辺と立会川駅周辺を新たに地域生活拠点として位置づけております。

次に、都市軸としましては、3-5ページで記載のとおり、都心方面と大井町、川崎・横浜方面などを結ぶ鉄道などや、今回の改定で新たに加えた羽田空港アクセス線などの都市基盤を広域都市軸として位置づけ、また、東急大井町線や補助26号線など区の東西を結ぶ都市基盤を東西連携都市軸として位置づけております。

次に、資料をおめくりいただき、3-7、3-8ページでございますが、土地利用と開発誘導の基本的な考え方として、図に示すゾーンごとの地域特性に応じた土地利用の方針を示してございます。

続きまして、3-9ページを御覧いただき、(2)では、開発誘導の基本的な考え方として、開発の機会を捉え、地域の防災性の向上に資する機能整備や、使いやすく、歩きやすい建築物や歩行空間の整備誘導、環境に配慮した建築物計画や地域の魅力や個性を発揮する機能整備な

ど、効果的な地域貢献で質の高い都市空間の創出を図ります。

続きまして、第4章、分野別まちづくりの方針でございます。

4-1ページでは、現行計画同様、引き続き、記載の6分野においてそれぞれまちづくりの方針と取組を定め、目指すべき都市像「輝く笑顔住み続けたいまち しながわ」の実現に向け取組を進めてまいります。

東日本大震災直後に策定の現行計画では、防災まちづくりを最も強力に打ち出し、取組を進めてまいりましたが、近年の首都直下地震などの切迫性や自然災害の頻発化・激甚化が顕著になっており、国・都・区それぞれが国土強靱化の取組に注力してございます。

また、区、長期基本計画においても「安全」を重要な政策分野の一つとして位置づけており、区民アンケートでも、防災に関する取組を求める回答の割合が高くなっております。

そのため、今後の10年間においても、「防災・復興」分野を軸にしながら、6つ分野が連携した取り組みを「強靱なまち」につなげていくことを重視して、まちづくりを展開していくものでございます。

資料4-2ページでは、「強靱なまち」、大規模自然災害でも、人命保護が最大限図られ、社会機能が致命的な障害を受けずに維持され、迅速に復旧復興がする、こうしたまちづくりにつながる分野連携のイメージを記載してございます。

次に、資料をおめくりいただき、4-5ページを御覧ください。ここから以降は、6つの分野別それぞれについて記載してございます。6分野ごと、これまでのまちづくりの成果と今後の課題、その課題の裏返しとなるこれからのまちづくりのポイント、分野別のまちづくりの目標と、本日の資料では、作成中としておりますが、将来のまちのイメージパース図、それから、方針と取組、方針図を記載し、それぞれ同じ構成で記載してございます。

それでは初めに、防災・復興では、4-6ページ上段、目標を「様々なリスクにしなやかに対応できるまち」とし、7ページ、方針と取組では、「①木造住宅密集地域の解消と耐震化を進める」では、黒丸の1つ目、老朽木造住宅への耐震改修工事費助成による耐震化や除却費助成等による建て替えの促進、次に、黒丸の3つ目、都が進める特定整備路線の整備の促進と沿道の不燃化による延焼遮断帯の形成などとし、次に、「②災害時も機能する道路空間を確保する」では、黒丸の1つ目としまして、特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化・不燃化による災害時

の道路ネットワーク機能の確保、次に、黒丸の2つ目、鉄道の連続立体交差化・踏切解消などによる災害時にも地域をつなぐネットワークの確保などとしてございます。

次に、「③みどりと水辺の多様な機能を活かして、まちの災害対応力を高める」では、黒丸の1つ目、うるおいやすらぎとともに減災効果など、自然環境が有する多様な機能の積極的な活用。次に、黒丸の4つ目でございますが、目黒川や天王洲運河等、身近な水辺空間での平常時の区有船着場の活用と、災害時にも緊急輸送手段として活用できる拠点機能の確保などとし、次に、ページをおめくりいただきまして、「④災害発生時に安全な避難とスムーズな救援ができる環境をつくる」では、黒丸の1つ目、新型コロナウイルス感染症への対応等、避難所機能や設備の充実。次に、黒丸の3つ目、再開発など実施時における、備蓄倉庫の設置など事業者との協働の推進などとしてございます。

次に、「⑤浸水被害を最小限に抑える対策を充実する」では、黒丸の1つ目、下水道施設の整備推進と浸水被害の防止・軽減、次に、黒丸の3つ目、高潮および津波からの被害軽減に向けた、未整備護岸や樋門等の整備の促進などとし、次の「⑥復旧・復興へ機動的に対応できる体制をつくる」では、黒丸の1つ目、災害時の事業継続性と住宅の非常用電源確保に向け、自立分散型エネルギーの導入を促進。次に、黒丸の5つ目として、災害時の復旧・復興の迅速かつ円滑化につながる、計画的な地籍調査の実施や3D都市モデルによるインフラ整備のインフラ情報の蓄積など、可視化・活用の仕組みの構築などとしてございます。

次に、資料をおめくりいただきまして、4-11ページには、方針図としまして、延焼遮断帯の形成、災害時の輸送ネットワークの確保、市街地の防災性向上に向け、事業中の都市計画道路や新防火の規制区域、密集事業エリア等を図示してございます。

続きまして、資料をおめくりいただき4-13ページ、都市基盤の分野でございます。

4-14ページ上段、まちづくりの目標では、前回の委員会のほうで「やさしい」という表現を用いておりましたが、こちらの表現が、やさしくしてあげるなど、誤った受け取りになりかねないなどの御指摘をいただきまして、一部表現を修正し、「多様なひとの移動や活動を支え、歩きたくなるまち」としてございます。

ページをおめくりいただき、方針と取組では、「①骨幹となる道路ネ

ットワークをつくる」としまして、黒丸の1つ目、交通の円滑化と防災力向上に向けた都市計画道路の整備促進。次に3つ目、再開発などの実施に合わせた都市計画道路の整備の推進。黒丸の4つ目、橋梁の安全性と機能性の向上や適切な維持・管理の実施などとし、次の「②多様なひとの移動や回遊を支える環境を充実する」では、2つ目、自動車走行空間の確保、次に6つ目、ユニバーサルデザインに配慮した歩道や、視覚障害者用誘導ブロックや音響式信号機の設置、7つ目、道路空間などを活用したにぎわい空間の創出などとしてございます。

次の「③鉄道やバスなど、公共交通の利便性をさらに高める」では、1つ目、羽田空港アクセス線における新駅要望に向けた検討。次に4つ目、駅のバリアフリールートの2ルート確保や可動式ホーム柵の導入に向けた鉄道事業者との協力と整備促進などとしてございます。

ページをおめくりいただきまして、「④踏切をなくし、地域がつながるまちづくりを進める」では、2つ目、戸越公園駅付近の開かずの踏切の解消に向けた周辺のまちづくりと一体的な整備推進などとし、次の「⑤次世代の技術でひと・ものの移動をより円滑にする」では、2つ目の最適な移動手段を選択できる境目のない移動サービスの展開などとしてございます。

ページおめくりいただきまして、4-19ページでは、都市基盤の方針図として、幹線道路ネットワークの形成や、優先的に整備を進める都市計画道路、都市計画道路の事業状況を図示してございます。

次に、4-20ページでは、人の移動に着目し、羽田空港アクセス線を軸とした公共交通軸の形成や、舟運を利用した移動軸について、また、安全対策を強化すべき駅、重点的にバリアフリー化を推進する地域、コミュニティバスの拡大検討などを図としてまとめてございます。

次に、資料をおめくりいただき4-21ページ、水とみどりの分野でございます。

4-22ページ上段、まちづくりの目標としては、「水とみどりから居心地の良い空間がつながり、広がるまち」とし、ページをおめくりいただき、方針と取組では、「①うるおいとやすらぎをもたらす光とみどりのネットワークを充実する」では、1つ目、豊かな自然の保全と創出による、水とみどりのネットワークを形成。次に2つ目、再開発などに合わせた公園やオープンスペースの確保による豊かなみどりの創出。

3つ目としまして、目黒川などの水質改善に向けた浚渫・清掃や合流式

下水道等の改善などとし、次に、「②まちなかの身近なみどりを充実させる」では、2つ目の新型コロナ危機を契機とした新たな生活様式のニーズに対応する公園などの環境整備の推進、次に5つ目、道路の整備における、防災・減災や緑陰による快適な歩行空間が形成できる街路樹の適正配置などとしてございます。

次に、「③品川らしさを感じられる水とみどりを保全・活用する」では、1つ目、地域の歴史や風土を伝える水とみどりの保全・活用。次に3つ目、しながわ水族館のリニューアルに合わせた、水辺を体感できる空間の創出。次に4つ目としまして、勝島運河周辺の回遊性を向上する人道橋の整備などとしてございます。

ページをおめくりいただき、4-25ページでは、水とみどりの方針図として、風の道の形成や、水とみどりの連続する軸の形成、道路と一体となったみどりのみちのネットワークの形成、水辺の空間整備・活用を図示してございます。

それでは、次に4-27ページ、都市景観の分野でございます。

まちづくりの目標では、「地域固有の限界性を楽しみ継承創造するまち」とし、方針と取組では、「①歴史あるまちの景観を守り、継承する」では、1つ目、旧東海道品川宿では、重点地区として、歴史的資源を守り、店舗等での宿場町の雰囲気と調和したデザインの修景などとし、次の「②にぎわいと調和のとれた景観を創出する」では、2つ目、中高層建築物における、スカイラインの連続性の配慮や、色彩やデザインが調和したまちなみ形成の誘導、次に4つ目、商店街のにぎわいや個性の創出、良好な景観形成が調和する屋外広告物の商店街ごとのルールづくりへの支援などとし、次に、「③良好な住宅地景観を保全・誘導する」では、2つ目として、統一感あるまちなみを形成する街並み誘導型地区計画等の導入促進などとし、次の「④移動しながら楽しめる景観を演出する」では、1つ目、水辺の建物の建て替えや開発の機会を捉え、散策路や水上からの視点に配慮した建物の配置や、開放感のある景観形成の誘導などとしてございます。

次に、「⑤多様なひとを惹きつけ、新たな魅力となる景観を創出する」では、1つ目として、歴史館や水族館のリニューアルを契機とした、品川らしさを感じる空間の創出、次に3つ目、目黒川や天王洲アイルなどのイルミネーションやライトアップによるまちの新たな魅力の創出などとしてございます。

ページをおめくりいただき、4-31ページでは、都市景観の方針図として、個性的な景観形成を図る重点地区や、今後重点化を検討していく地区、また、水辺の魅力を発信し高めていく水辺景観形成特別地区などを図示してございます。

次に、資料をおめくりいただき、4-33ページ、環境・エネルギーの分野でございます。

まちづくりの目標は、「エネルギーを効率よく使いながら快適に暮らせるまち」とし、方針と取組では、「①地域特性に応じたエネルギー利用を進める」では、3つ目の再開発等の実施に合わせた、エネルギーを効率的に利用できるスマートエネルギーネットワークの構築等によるエネルギーマネジメントの検討などとし、次に、「②建築物における省エネ・創エネと効率的なエネルギー利用を進める」では、1つ目として、公共施設の整備や再開発の実施に合わせた、省エネと創エネを組み合わせた環境に配慮した建物の整備の促進などとし、次に、「③建物更新や公共施設整備等の機会を捉えた資源循環に貢献する」では、1つ目として、公共施設や民間建築物への木材の利用促進などとしてございます。

次に、「④環境負荷の少ない次世代交通を利用しやすい環境をつくる」では、1つ目として、公共交通や電気自動車によるカーシェアリング、シェアサイクルの利用促進などとしてございます。

次の「⑤水やみどりを活かしてヒートアイランドを緩和する」では、2つ目、屋上緑化や壁面緑化の促進と、ミスト等の環境技術の導入によるヒートアイランド対策の推進などとしてございます。

ページをおめくりいただきまして、4-37ページでは、環境・エネルギーの方針図として、面的なエネルギーの利活用や再生可能エネルギーの導入促進するエリア、産業活動・物流における脱酸素・ゼロエミッションの取組や、風の道、地域冷暖房導入区域等を図示してございます。

次に、資料をおめくりいただきまして、4-39ページ、都市生活と住まいの分野でございます。こちらの分野につきましては、初めに住宅をめぐる現状等の記載をさせていただいております。

ページをおめくりいただき、4-42ページ上段では、まちづくりの目標を「多様なライフスタイルで豊かに生活し、住み続けられるまち」とし、方針と取組では、「①良好な住宅の質を維持・確保する」では、

	<p>1つ目、高経年のマンション等について、適正な維持管理のための支援体制の充実と、建て替えを検討する管理組合に対する適切な支援などとしてございます。</p> <p>次に、「②多様なライフスタイルにあわせた住まい方を選択できる環境を充実させる」では、1つ目、ライフステージ・ライフスタイルに応じた住宅を選択できるよう、バリアフリー化やワークスペースの確保などによる、住み続けられる住宅の整備と活用の促進。次に3つ目、空き家の適正管理の促進と、住み替え等の有効活用の推進などとしてございます。</p> <p>次に、「③住み続けるひとのコミュニティを育む場を創出する」では、1つ目、テレワークがしやすい環境を整えた住宅の普及や、住宅市街地におけるシェアオフィスの整備促進による、身近な生活圏で住み働く環境の充実などとしてございます。</p> <p>ページをおめくりいただきまして、4-45ページでございますが、都市生活と住まいの方針図としましては、高度な拠点機能の集積や交通結節点機能を活かした都市型居住の推進、身近な生活支援機能を充実する拠点や、ゆとりある戸建て中心の居住環境を維持するエリア、また、良好な住宅市街地を開発整備するエリアを図示してございます。</p> <p>簡単でございますが、説明は以上でございます。</p> <p>御苦労さまでした。一気に膨大な資料を説明していただきました。</p> <p>まず、前半はこれを基に質疑応答、御意見をいただくということですので、章を区切るというよりは、どこからでもそれぞれのお立場で横断的に御発言をいただいたほうがいいかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員長	<p>着席のまま失礼させていただきます。</p>
委員	<p>大変細かい点で恐縮でございますが、第1章から第4章までございまして、私は、目次という部分が非常に大切な部分だと思うんですね。目次、広げていただきますと、第4章だけナンバリングがゼロから始まっているんですけど、これに何か意味合いがあるのか。なかったら1から7までにしていただいて、修正をかけていただきたい。思います。細かいことすみません。よろしくお願ひいたします。</p>
委員長	<p>事務局、何かありますか。</p>
事務局	<p>御指摘ありがとうございます。4章では、6つの分野別のそれぞれ説明をしているというところで、6つの分野については、4-1ページ、</p>

	<p>こちらのほうにもそれぞれの分野別に番号を振らせていただいている関係もあって、できるだけその辺が整合するように、目次のほうをゼロから始めて、防災・復興が1になるように整合をかけているというところでございます。</p> <p>御指摘のとおり1から7という振り方も、通常ですと正しいのかもしれませんが、そうしたときに資料の中で振っている番号とずれが出るということで、こういう形で振らせていただいております。</p>
<p>委員 委員長</p>	<p>分かりました。</p> <p>おっしゃるのもよく分かります。ほかの章にゼロがないのに、ここだけゼロがあるというのは、ちょっと違和感があるのは確かなので、ちょっと御検討いただけますか。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>はい、検討したいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
	<p>ほかに。</p> <p>私もさっきのゼロのやつがちょっと気になったなど。ゼロから始まるのはなという感じがあった。</p> <p>それと、私も細かいことなんですけれども、2-11のところ、薄い緑に白の抜き彫りで書いてあるんですけれども、私は緑内障なのでどうしても見にくいという点があるので、色の淡いというか、網かかった色を使うときには抜き彫りにしないでほしいなど。非常に読みづらいという点があります。</p> <p>あと、地図の説明なんですけれども、非常に字が小さいのがあるので、例えば4-20の上のほうの凡例というのは、このぐらいでしたら読めるんですけれども、下の段のところの細かい字になってくると非常に見にくいので、ほかの地図の部分もそうなんですけれども、その辺は空白が結構あるので、もうちょっと大きい字にできるんじゃないかなという気がします。ただ、今度はあんまり字ばかりだと読みづらいというか、見た瞬間に読みたくないなという感じになるので、その辺のバランスはあると思いますが、できるだけ字を大きくしていただければありがたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。多分、つくっているほうは、画面で拡大したり縮小したりしてつくっているので問題なく見えるんですけれども、やっぱり冊子として手にとって読んでいたら、今の御指摘のようなことはすごく大事な事かなと思いますし、色のことは、私も専門ではな</p>

委員	<p>いんですが、カラーバリアフリーという考え方があるはずなので、何でも色を使ってカラフルにすればいいということではないと思いますので、その辺りは慎重にやっていただいたほうがいいと思います。</p> <p>私も少し細かいことで恐縮なんですけれども、4-23ページの真ん中あたり、「多様なニーズに対応した」の後の「Park-PFI制度など」と書いてあり、個人的には不勉強で、Park-PFI制度というのを初めて知りまして、どういう制度なんだろうというふうに興味が湧きました。この都市計画マスタープランを手取る方って、「民間の力の活用を進めていきます」とここにも書いてあるんですけども、興味を持った方が、この制度ってどういう制度なんだろうというふうにきっと興味を持たれるかなと思ひまして、ぜひ可能であれば注釈みたいな形で、どこかに制度の説明を書いていただけると、より親切かなと考えました。</p> <p>以上です。</p>
委員長	御指摘ありがとうございます。
事務局	<p>これ、注釈にするんですか、用語集みたいなものを作るんですか。</p> <p>そこは、全体のレイアウトも含めて、注釈にするのか、最後にまとめるのか考えますが、今のところは下段のほうに注釈という形で考えています。</p>
委員長 事務局	<p>2-12はIoTが注釈になっていますね。</p> <p>そうですね。まだ全体として、細部にわたって注釈がつけ切れていないところもございますので、必ず分かりやすい言葉で計画の中で御説明はさせていただきたいと思ひます。</p>
委員長	ぜひそのあたりは、完成版に向けてよろしくお願ひします。ありがとうございました。
委員	<p>私もちょっと細かい話なんですけれども、4-43を御覧になっていただいて、「②多様なライフスタイルにあわせた住まい方を選択できる環境を充実させる」というところの写真なんですけれども、非常に多様なライフスタイルという大きい目標に対して、ここに物入れの写真がついているんですが、もうちょっと何かいい写真があればと思ひます。</p> <p>以上です。</p>
委員長 事務局	<p>この写真を使った意図は何なんでしょう。</p> <p>御指摘いただいたこの写真に限らず、非常に今事務局としても、手に</p>

<p>委員長</p>	<p>取っていただけるように、文章と一緒に図ですとか写真で、よりイメージとして分かりやすく構成しているところです。今、具体的に1点御指摘いただきましたので、事務局のほうで最終形に載せる写真について吟味していきたいと思います。</p> <p>写真とか図って先に目に入ってくるので、それが注意を引かないと読んでくれないので。大学で設計を教えているときもそうなんです。絵で注目されないと話を聞かないという話をするんですけども、これもそうです。この押し入れだけ見てもここを読もうという気にはならないので、ここにはこういうことが書いてあるんだなということをちゃんとイメージさせる図とか写真を使って文字のほうに誘導するというのをやっていかないと、うまく中身が伝わっていかないかなと思います。今後の課題です。全体に対しての課題だと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>今の写真の話なんですけど、都市マス、すごくたくさんいろんなところの自治体の策定に関わっていますけど、ここまで写真ばかりの都市マスは私は見たことがなくて、写真はそこまで必要なんですかねというのがまず1つあります。</p> <p>写真って分かりやすくするものかもしれないんですけども、それ以外にも図で説明するとか現況を説明するといったものが、グラフとか図とか、数字で説明できているものがほとんどなくて、都市白書みたいなものとマスタープランが連動するような形で策定されるならいいんですが、そうでない場合は、今の品川区の現況を説明するというのは2-7、8の2ページしかない。これもこれだけで品川区の現況を説明し、今後の都市計画をどうしますということを説明するのに、これだけでいいんですかというのがあるんですね。現況どうなってきました、これからどういうまちを目指したいという、そのための数字なんかはまるっきりないというのが私はとても気になります。</p> <p>後ろのところの御説明を聞いていても読んでいても思ったことなんですけれども、全体的にフラットで、あれをやります、これをやります、これもやりますと書いてあって、そんなに全部できないです、多分ね。そうすると、区として戦略的にこれをやりたいですというプライオリティとしての都市づくり、何やりますという目玉がないんですよ。目玉がないということは、やる気がないようにしか私には見えなくて、どうするんですかというのが明確に分かる、パンチがあるものをつくらないと意味がないんじゃないですかということを思いました。</p>

委員長 事務局	<p>痛烈な御指摘をいただきましたが、何かありますか。</p> <p>写真については、見てイメージしていただけるようにということについているんですが、御指摘いただいた都市白書等と連動しているかという話もいただいて、第1回目、2回目の中では、品川区の現状を大分細かく分析した図も含めて御提示させていただきました。御指摘のとおり、確かに2ページでその辺の整理がとどまっているというところはございます。この辺、御指摘いただいたところにつきましては、もう一度事務局のほうで検討させていただきたいと思います。</p> <p>それから、プライオリティといいますか、目玉といいますか、そうしたところの見せ方でございますが、副委員長御指摘のとおり、それぞれの施策に濃淡というのは区としても持っているのは現状としてございますが、やはり区のまちづくりの上位計画ですので、基本的には網羅的に載せていただきたいというところは1つございます。</p> <p>その中で、過去の委員会の中でもそうした御指摘をいただいて、今回、改定の計画素案の中では、これまでも御説明してきてございますが、防災まちづくり的なところを区としては今後10年間、さらに少し力を入れてやっていきたいというところでの見せ方をさせていただいたところでございます。</p>
副委員長	<p>そうだとすると、防災のところもう少し際立つような形にしないと、今おっしゃった決意みたいなものは、ここからは分からないです。まちづくり全体的に網羅的に書くというのは必要なのかもしれないですけど、そうだったら総合計画に書いてもらえばいいんじゃないですか。</p>
委員長	<p>表現の仕方で対応できるものもあるでしょうし、もう少し根本的に見直したほうがいい部分もあるのかなと思います。</p> <p>データの話は、よその自治体だと、後ろに付録的にデータ編をつける場合もありますし、今日御提示いただいた資料だと、4章でそれぞれまちづくりの主な成果というところがあって、最後の住宅のところだけその前にグラフがあるんですけども、もう少しほかの部門もデータとして、これだけやってきましたということを入れるのも1つの手かなと思いますので、そこも御検討いただいたほうがいいかなと思います。</p>
事務局 委員長	<p>検討させていただきます。</p> <p>どうぞ。</p>

委員	<p>10年に一度にマスタープランの改定ということで、あくまでも基本は10年後にあるべきまちの姿といたしますか、それが一番出てくると思うんです。それは今回の第3章で新しく書かれている「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」が、非常に概念的な話ですけれども、ここにあるべき姿というんですかね。第4章で、そのための手段として、具体的にまちづくりを取り込むことに対して、具体的に6つの手法を使って強靱なまちをつくるというのが出てありますよね。そうすると、強靱なまちをつくるのが10年後にあるべき品川に直結するんでしょうか。強靱なまちと云ったら、どっちかという、今こういう時代ですから、より強いメッセージがありますよね。強靱なまちづくり、一般的には防災を強化した、そういうことに特徴を入れてやるんだと。そのイメージと住み続けたいまち品川というイメージと、ちょっとダブルスタンダードというかな。強靱なまちをつくれば、10年後にあるべき、この目標の笑顔で住み続けるまちに近寄っていくのかという、その辺の全体的な話なんですけれども、ちょっと教えていただきたいと思います。</p>
委員長 事務局	<p>事務局、どうぞ。</p> <p>御指摘いただきましたとおり、10年間で特に防災に力を入れて、しかも6つの分野で連携して強靱なまちにつなげていくというところでの記載をさせていただいておりますが、それだけをもって長期基本計画でも示している、そして今回の計画でも示している「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」の実現につながるわけではありません。長期基本計画の中でも、にぎわいですとか活力ですとか、すこやか、共生ですとか、そうした様々なものが相まって、最終的にという、総合的に「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」につなげていくというところがございます。そういうことで、この計画で特に力を入れているところということで書かせていただいておりますが、それで計画の目指すべき都市像は、基本構想から用いてそういう形でさせていただいておりますが、それぞれの分野、あるいはこれから御説明させていただく地区別でも、目指すべき目標的なところは書かせていただいておりますので、そうしたところが、例えば水とみどりでは、潤いですとか安らぎですとか、あるいは市街地整備では、にぎわいですとか魅力の創出ですとか、そうしたところが総合的に相まって最終的な目指すべき都市像につながっていくところだということでございます。</p>

委員長	<p>いかがですか。その辺が分かりやすく最初のほうで伝えられたほうがいいかもしれないですね。工夫をしていきましょう。</p>
委員	<p>続いて、委員の方、どうでしょうか。</p> <p>マスタープランなんですけれども、大体まとまったものでよくよく見返してみますと、子どもに対するという、子どもというエリアはせいぜい二、三回ぐらい出てきたんですね、子育て支援ぐらいですかね。昨今、地球温暖化で休み時間に子どもたちが校庭で遊べない、何度以上は遊んじゃ駄目。プールですら気温が高くなるとできないということですから、この先10年後を考えるのであれば、体育館の整備であり、公園を造ったときに何らかの、気象の厳しいときにも遊べる施設を造ったりとか、いつも申し上げていますが、公園緑化でもっと緑を多くして日陰をつくるとか、そういったことは必須になってくるんじゃないかと思うんです。私も含めて、10年後、生きているか分かりません。でも、次世代を生きていく子どもたちに対する考えが、マスタープランに全然載っていないような気がします。</p>
委員長 事務局	<p>それで、今度マスタープランのオープンハウス型説明会で意見を求めるということなんですけれども、これも気温がどうなるか分かりませんが、ぜひ、いい機会だと思います。私は子どもたちの意見を直接皆さんが聞いてもらう、品川区の未来をこんな感じにしてほしいなということ、また子育て中のお母様たちの意見もぜひ聞いていただける機会になればいいなというふうに思っています。</p> <p>これはあくまで意見ですが、それこそ副委員長の話にもありましたけれども、やっぱり品川独自のものって子育てに優しいとか、子どもたちが思いっきり遊べるとか、そういったものをぜひ入れていただければなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p> <p>大事な御意見だと思います。何か事務局からあれば。</p> <p>御指摘として受け止めまして、そこの検討、事務局として考えていきたいと思いますが、計画としては、子どもというお話もいただきましたが、全体の計画としては多様な世代、大人から子ども、御高齢の方まで含めて、まちづくりに対応して進めていきたいということでございますけれども、計画の中にそうした視点をもう一度見直して、記載、位置づけられることになるかというのは、事務局のほうで検討していきたいと思います。</p>

	<p>それから、最後に御説明させていただきますが、オープンハウス型説明会を9月に一度行っていきたくと思いますが、その中で不特定多数の方が集まる場で、説明会を、お声がけをさせていただきながら見ていただくことにしておりますので、会場の中に入らせていただいているだけでなくて、歩いている子育ての方、あるいはお子さん等にもお声がけをして、中に入らせていただいているだけで、感想、御意見などもぜひ聞いていきたいと思っております。</p>
<p>委員長</p>	<p>次世代につなぐというのは、我々の使命として大事だと思います。</p> <p>私がこの前までやっていた、ある市の都市マスの改定作業では、中学生を各校から集めて中学生ワークショップというのをやって、そこからいただいた意見も組み込みながら改定をしたというところがあって。品川区さんはスケジュールの関係もあって、かなり短期間でやろうとしているので、そこまではできないとは思いますがけれども、今後何らか、10年後になりますけれども、次の大改定に向けて、そういうこともやっていく。その子どもたちが大人になってまちを担っていく、あるいはまちのことに興味を持って生活していってくれるということにつながるとすれば、将来のまちづくりにも役立っていくと思っておりますので、ぜひそのあたりも考えていただければなと私も思いました。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>お手元の資料2-7、人口と居住意向、ちょっと具体的な数字が掲載してございます。まちづくりは、やはり住民の方なくしてまちづくりはありませんので、丸の内みたいに住民の方が少ない、無機質なオフィス街というのもありますけれども。ここで、確かに右肩上がりのグラフを残したいのは分かりますけれども、もう間違いなく2022年、本年の8月1日現在では40万4,000人、もう減少してきているわけです。</p> <p>ですから、今後は、確かに右肩上がりではなく減少だと思いますので、その数字を、5年後とはいわず、これが完成する間近の直近、8月1日でも9月1日でも10月1日でもいいですから、数字を、現時点のグラフを入れていただきたい。しっかり私たちが、減少してどうやってまちづくりに向き合っていくんだということを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>これは国勢調査だから、ちょっと前のデータですね。御指摘のとおり</p>

事務局	<p>り、コロナを経て、もしかしたら減ってきている、それをどう踏まえるかというのは、ここだけで議論するわけにもいかないので、区全体として将来人口をどういうふうに推計して施策を打っていくかにもよるとは思うんですが、そのあたりどうなんですか。</p> <p>委員長おっしゃっていただいたように、ここのデータが5年ごとの国勢調査のデータを用いてございますので、最終的な形、先ほど品川区の現状を示すところを巻末で示すとか、あるいはそれぞれの分野別でお示しするかについては、これから検討させていただきますので、その中で更新していかなければいけないところは、できるだけ更新してお示しをして、それから一時、品川区のほうでもコロナが要因と思われる中で、住民基本台帳ベースでは減少傾向にあったんですが、それもまた今戻っているような状態でございます。</p>
委員長	<p>推計としましては、いずれ減少に向かうというところは推計としては出てございますので、委員長から御指摘いただいたように、品川区全体の長期基本計画ですとか、そうした様々な取組の中で、減少あるいは少子高齢化、そうしたところを見据えながら計画のほうも最終的な取りまとめをしていきたいと思っております。</p>
事務局	<p>人口の話は巻末じゃ駄目で、やっぱりこのプランの大前提になるので、しっかりと前のほうで言うていただく必要があるかと思えます。</p>
委員長	<p>分かりました。</p>
事務局	<p>それから、10年先を考えると絶対に減少するので、それに向けて減少幅を食い止める施策を打つのか、減少に合わせた都市づくりをするのかということがかかなり大きく違うと思うんです。そのあたり、どうですか。</p>
事務局	<p>10年間でいいますと、第1回目か2回目で推計のほうも示させていただきましたが、いずれは減少に向かうということなんですが、今後10年間という計画ですので、基本的には食い止める。少なくなるのを前提に計画を打つというよりも、ここから品川区に、結果的にそれを食い止めるという言い方になるのかもしれませんが、より多くの方に定住を継続していただいて、外から区のほうに住み替えていただいて、その後、長く住んでいただきたいという思いで計画のほうはしていきたいというところでございます。</p>
委員長	<p>分かりました。そうすると、住むところとして選んでもらえる都市づくりを進めるには何が売りなのかというあたりが、さっき副委員長が</p>

委員	<p>おっしゃったポイントになってくるのかもしれませんが、そういう呼びかけをちゃんとしたほうがいいかなと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょう、私ばかりしゃべってもしようがないので。</p> <p>では、私のほうからになりますけれども、2-1 1と1 2に関しまして、これからのまちづくりの視点ということで、前回、前々回、私どもの意見に関しましても真摯に御検討いただきましてありがとうございます。</p> <p>その上で、改めて確認をさせていただきたいのですけれども、2-1 1で示されている、真ん中に「質の高いまちづくり」とあり、5つの項目がありまして、この5つについては非常に平易な表現でありながら、何をやるのかということがとても分かりやすく伝わってくる表現で、理解しやすいかなとも思うんですけれども、先ほどの御意見の中にもありましたが、何をプライオリティとして捉えているのかということを見ると、これは単に強靱なまちづくりということが中心に挙げられる、それに対してここの中心の質の高いまちづくりとあるのが、それぞれをどういう位置づけで理解したらよいのかなというものが、少し理解が混乱したところでございます。</p> <p>加えて、質の高いまちづくりの5つの項目の後に、今度はまちづくりの方向性というものが同じように5つ、2-1 1から1 2にかけて挙がってくると思いますが、ここはまた前段の質の高いまちづくりの5項目とは異なる形でまちづくりの方向性が5つ出てきていたのかも見られます。ですので、前と後に出てくるものの関係性をどう理解したらよいのかなということが一瞬戸惑いました。</p> <p>その上で、今度は4章の際に6分野が出てきますので、また6分野でそれぞれの何をやりますというのが掲げられている。それと、今度こちらの2章で挙げているものが、1対1対応できるように整理できるものではないだろうなとは思いますが、これらをどう捉えていいのかということが、続けて記載しますので、とにかく、やはり何を一番大事にしたいんだ、結局これをしてほしいんだということがこの辺が見えにくくなっているのかなと思われまして。</p> <p>ですので、それぞれ掲げているキャッチフレーズないしは目標と、それぞれの関係性というところをもう少し分かりやすく、ないしは少し削減するような、もっとスリム化したような形でまとめることもできるのかなと、この資料を拝見しながら思ったところでございます。具体</p>
----	--

<p>委員長 事務局</p>	<p>的にこうしたらいという案はなくて申し訳ないんですけども、その点、少し複雑化しているような点があると思いますので、精査していただくとういのかなと思いました。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。事務局から何かありますか。</p> <p>ありがとうございます。これまでも検討会の中でそうした御意見をいただいて修正を加えてきたわけですが、2-11、2-12で、質の高いまちづくりの外側に5つの枠をつくって記載させていただいている内容、基本的にはこの12、11でお示ししたいところが、今回の改定計画というのは新たなまちづくりの動き、社会情勢の変化ですとか、そうした新たな動きを加えて改定を行いますというところ、その新たな視点、加えるべき視点を5つ記載させていただいております。</p> <p>例えばですが、質の高いまちづくりのところ、一番下に「みどりと水辺の多様な機能を活かし」、その辺の表現はあらゆる災害に備えた社会へというところで、「インフラの多重化と多面的な機能を活かして」というところで、まだ十分関係性が示せていないところも今御指摘いただいて、御意見としていただきましたので、より分かりやすくその辺は整理させていただきたいと思えます。</p> <p>それから、質の高いまちづくりと、後ほど出てきます強靱化のまちとの関係性でございますが、こういう新たな視点、これからの社会の変化に対応できるまちづくりというのは、こうした視点を取り入れながら、さらに質の高いまちづくり、質を上げていきたいというところで表現をさせていただきました。強靱なまちづくりというのは、先ほども御説明した防災の取組を一番重要視してというところで書かせていただいておりますので、御指摘いただきましたので、とどまることなく改善、あるいは、より分かりやすい記載ができないかというのは、もう一度事務局として検討していきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>それぞれの表現自体は、非常に検討された適切な言葉がおおむね用いられているのかなと思うんですけども、概念整理ですね、幾つかいろんな項目も出てきますので、1対1対応ではいけない部分をどういうふうにしては整理されているのかというのが、この文章を見る限りではちょっと読み取りにくいという、その点でありますので、要は説明の仕方になりますが、その点をぜひ御検討いただくといいのか</p>

<p>委員長</p>	<p>などと思います。 以上です。 ありがとうございます。さっきの課長さんの説明を聞いても、ちょっと分からないですよね。説明されても分からないものを読んだだけで理解しろというのは無理な話なので、やっぱり読んで、すっと入ってくるというのがすごく大事な話ですから、先ほどおっしゃったように、スリム化というか、整理して減らしていくというのも大事だとは思いますが、そういったことも含めて、骨子からこういうふうに文章にして分かることだと思うので、ぜひここからもう1回、骨子で言っているようなことを、きちんと真っすぐに伝えられるような表現を考えていきましょう。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどから質の高いまちづくりという話題になっておりますが、2-5、2-4ですが、この中に教育施設に関するものが1つも書いていないんですね。子どもたちにとって、まず教育施設、品川区はどんなに教育に力を入れているか、それを宣伝するためにも、ぜひこんな教育施設があるよとか、小中一貫校に変わるか分かりませんが、画期的なこともやっておりますし、この辺もひとつ記事の中に入れていただきたいと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>以上です。 これは先ほど子どもとか次世代に引き継ぐということと関連してくるかなと思います。データを充実させる1つとして、そういった教育施設の配置みたいなものは。教育施設の配置は多分防災とも関係してくる話なので、ぜひやっていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ほか、いかがでしょうか。 品川区の障害者差別解消法のハンドブックというのがあるんですけども、これの脇の部分に切り込みが入っているんです。この切り込みは何なんだろうかとといったときに、目の不自由な方がここの切り込みがあるところではQRコードみたいな、ここにかざすとここのページの部分の音が聞こえる、読んでもらえるというものなんですけれども、このマスタープランの各ページ全部に入れろとは言わないですけども、各章のピックアップした、先ほど御説明いただいたような形のをこれに加えるということは難しいことなんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>その切り込みの意図というのは、今御紹介いただいたとおりでございます。これから最終的な冊子に向かっていくわけでございますが、そ</p>

<p>委員長</p>	<p>うしたところはこれから検討させていただきますが、今のところはそうした形の切り込みというのは、予定としてはしておりません。区の他の計画ですとか福祉部局にも確認したりしながら、最善の方法がないか、どういったものが必要かというのは、取りまとめの段階でしっかり検討していきたいと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。バリアなく、より多くの人に見てもらうための施策というか。都市マスだけの話ではないので、区全体の政策としてどう考えるかだとは思いますが、全文は無理だとして、概要版って作るんですか。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>今のところ、概要版は予定していません。</p> <p>概要版を作るだったら概要版だけでもと思ったんですが、予定がなければ。</p>
<p>委員</p>	<p>今いろいろ高度な話を聞かせていただきまして、私たちというのは高度なことを考えるよりも、実際に現場でやるほうの立場なので、いろいろな話は参考にさせていただきました。</p> <p>その中で、今ちょっと話が出ましたけれども、いわゆる品川シーサイド地区近辺の話、勝島地区の話になるんですけども、非常に子どもが多いんです。学校も子どもたちが多くなっているわけなんです。先ほどお話に出たように、このマスタープランの中に子どもたちのための政策というか、そういう部分がどういう形で出していればいいのか。</p> <p>例えば今、保育所をいっぱいつくっているんですね。私の地区でも保育所がどんどん出ております。そういうものが全体の施策の中で、将来的にこれは子どもがいなくなればなくなるんでしょうし、それからマンションでも、今、人口が増えていますけれども、当然高齢化が進むわけで、この中で強調されている水辺の開発というか水辺の共生、これなどは、今、私の地区ではお年寄りが散歩でこの公園を利用、安らぎの場としているということが多く見られます。これが10年後に、ではどういう形でこれをさらに発展させるのか、だんだん子どもたちが減ってきたらどうするのかというのを何かの形で表現していただければありがたいなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。もう1個の議題もあるので。</p>

事務局	<p>子どもの話が今日何人かの方から御指摘がありましたので、そこはちょっと考える必要があるとは思いますが、これは都市計画マスタープランでありまちづくりマスタープランなので、都市計画分野とか住宅分野で何ができるかという話しか書けないと思います。そのあたりの制約の中で、ほかの部門別の計画が多分お持ちだと思いますので、そこ都市計画との関係から書き込んでいくということを考えていただければいいかなと思います。</p> <p>それでは、まだ御意見があるかもしれませんが、もう一つの議題のほうをやってまいりたいと思います。改定の骨子案について、この先ですね、5章、6章の話ということで、資料2で御説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、第5章、地区別まちづくりの方針及び第6章、マスタープランの実現に向けての骨子案についてでございます。</p> <p>資料2を御覧いただきまして、1ページ目、第5章、地区別まちづくりの方針について、ここでは地区別の区分を図で示し、それぞれの地区の特徴を記載してございます。この区分は現行計画の区分と同じものでございます。</p> <p>それぞれの地区の特徴としましては、品川地区では、品川駅周辺や臨海部を中心に整備された業務・商業地などの「新しさ・先進性」、旧東海道品川宿の街並みや寺社仏閣、品川浦の舟だまり等に象徴される「伝統・歴史性」、両方の魅力を併せ持つ地域でございます。天王洲アイルや品川シーサイドにはオフィスビル等が建ち、豊かなみどりや水辺空間とアートが融合した新たな品川の景観を生み出しております。</p> <p>次に、大崎地区では、オフィスビルやマンションなどの高層ビルが建ち並ぶ大崎駅周辺やIT関連などのベンチャー・スタートアップ等の新たな産業集積が見られる五反田駅周辺は、新宿・渋谷方面及びお台場方面と鉄道でダイレクトにつながる職・住・遊・学の拠点です。また、池田山や島津山などの高台には閑静な住環境が維持され、目黒川の桜並木や池田山公園などでは四季折々の花々を楽しむことができます。</p> <p>次に、大井地区では、区新庁舎整備の検討を含めた再開発が進められている大井町駅周辺には商業施設やホテル、文化施設、高層マンションなどが建ち並び、今後さらなるにぎわいが期待されております。勝島運河沿いには1.5キロメートルにわたる花畑「しながわ花海道」があり、身近な水辺空間として地域に親しまれております。また、レジャースポ</p>
-----	--

ットとしまして人気のしながわ水族館、区民公園、大井競馬場などには、区内外から多くの方が訪れております。

次に、荏原地区では、発展を続ける武蔵小山、にぎわいを見せる戸越銀座や中延などの活気ある商店街では、地域の個性を生み出すとともに、まちの利便性を高め、住民の日常生活を豊かにしています。木造密集市街地が見られるこの地域では、誰もが暮らしやすい安全・安心なまちづくりが進んでおります。

次に、八潮地区では、計画的に造られた大規模団地「八潮パークタウン」は、みどりと水辺に囲まれた住み心地のよい地区であり、周辺には大規模な都立公園が、また団地内には保育園、学校、図書館、高齢者や障害者のための施設が整備されております。臨海部には物流拠点である大井ふ頭のほか、新幹線などの鉄道車両基地が立地しており、羽田空港アクセス線の整備に伴う新たな都市軸の形成が想定されています。

資料をおめくりいただきまして、2ページ目以降、5地区の骨子案をそれぞれA3判1枚で示し、まちづくりの成果と課題、これからのまちづくりのポイント、地区の目標、まちづくりの方針と同じ構成でお示ししております。

それでは、2ページ目、品川地区では、地区のまちづくりの目標を「先進性と伝統の魅力が融合し次世代の首都・東京の玄関口となる国際交流都市」としてございます。

2ページ目右側、エリアごとのまちづくりの方針としましては、㊦品川駅南エリアでは、「①「品川駅南地域まちづくりビジョン」に基づくにぎわいの創出と魅力向上」や「②品川駅や北品川駅直近でのポテンシャルを活かした土地利用転換の誘導」、また「③八ツ山踏切の解消と北品川駅前広場の整備」などとし、次に、㊧天王洲エリアでは、「②天王洲らしさが感じられる、水辺とアートの映えるまち並みの形成」や「④水辺の環境を活かし、景観に配慮したまちづくりの誘導」などとし、次の㊨旧東海道品川宿エリアでは、「①歴史や伝統を感じながら歩きたくなる、ウォークアブルな空間の形成」や「④「品川区景観計画」の重点地区の基準に基づく街並み景観形成の誘導」などとしております。

次に、資料をおめくりいただきまして、3ページ、大崎地区でございます。地区の目標としましては、「職・住・遊・学の拠点の魅力で、多様な人々をひきつける質の高い先端都市」としてしております。

エリアごとのまちづくりの方針としましては、㊩大崎駅周辺エリア

では、「①ポテンシャルを活かしたさらなる開発事業の促進」や「④エリアマネジメント活動の支援によるまちの魅力発信と持続的な価値創造」、また「⑤脱炭素社会に向けたまちづくりを先導する取り組みの推進」などとしてございます。㊦五反田駅周辺エリアでは、「②ベンチャーやスタートアップ等の機能集積に資する地区内の老朽建築物の更新・活用」や「③まちづくりの機運に合わせた小規模街区や区画道路の再配置など、土地の有効な高度利用を図る大街区化を促進」などとし、㊧目黒川および周辺沿岸エリアでは、「①目黒川から風の道、水とみどりのネットワークを広げるアメニティ性の高い空間創出の誘導」や、「②目黒川の活用と継続的な水質改善」としております。

次に、資料をおめくりいただきまして4ページでございます。大井地区では、まちづくりの目標を「まちの魅力と暮らしがつながる生活文化都市」としております。

エリアごとのまちづくりの方針としましては、㊨大井町駅周辺エリアでは、「①大規模土地利用転換による商業、業務、住宅、宿泊および文化施設などの新たな都市機能の集積」や「②区庁舎再編と連携した、オープンスペースのネットワーク形成など、個性豊かな魅力とにぎわいのある中心核の形成としております。㊩西大井駅周辺エリアでは、「①大規模民間本社の移転整備に伴う周辺歩行空間の整備」や「②地域主体のまちづくりへの支援とともに生活サービス機能やワークスペースの充実」とし、㊪立会川・勝島エリアでは、「①立会川、旧東海道、勝島運河などの水辺空間をつなぐ、歩いて楽しいまち並み・移動環境・親水空間の充実」や「③立会川の水害や大雨に備える浸水対策」、また④としまして、「人道橋の整備やしながわ水族館のリニューアル」などとしてございます。

続きまして、資料をおめくりいただき5ページ目、荏原地区では、まちづくりの目標を「多様なライフスタイルでいつまでも住み続けられる安全・安心都市」としてございます。

まちづくりの方針としましては、㊫武蔵小山駅周辺エリアでは、「①「武蔵小山駅周辺地域まちづくりビジョン」に基づく共同住宅・商業施設等の整備促進と新たな形態のワークスペース導入」や「②にぎわいがあり快適に買い物が楽しめる商店街の多様な回遊動線・街並み・景観形成」などとし、㊬補助29号線および沿道市街地エリアでは、「補助29号線の整備と一体となった延焼遮断帯の形成」とし、㊭戸越公園駅・

旗の台駅・中延駅周辺エリアは、「①戸越公園駅周辺における東急大井町線の踏切解消、戸越公園一帯への避難の円滑化」や「③交通結節点の機能強化と歩車分離された歩行空間の創出による回遊性の向上」、また「⑤新たなワークスタイルに対応した空間の確保」などとし、㊦密集市街地エリアでは、「①密集事業による老朽住宅の建替え促進、道路の拡幅整備、公園用地の取得」や「②地区計画の策定による持続的な防災性・住環境の向上」などとしてございます。

次に、資料をおめくりいただきまして6ページ、八潮地区では、まちづくりの目標を「質の高い水辺空間と良好な住環境を継承し、物流の広域的機能が充実した次世代の臨海都市」としております。

まちづくりの方針としましては、㊧八潮団地エリアでは、「①次世代の良好な住環境の形成に向けた行政と住民と事業者が連携したルールづくり」や「②公有地の活用や空き室の改築による生活支援機能の導入・集積」、また「③八潮団地の高齢化に対応した福祉・介護事業の効率的な事業展開の検討」、「⑥地域外からの新たな居住者の定住を促進」などとし、㊨鉄道車両基地エリアでは、「①羽田空港アクセス線の整備に伴う新駅の要望に向けた検討」などとしております。

以上が第5章、地区別まちづくりの方針の骨子案でございます。

引き続き、7ページ目、第6章、マスタープランの実現とまちづくりのマネジメントの展開についてですが、「①多様なひとの力を活かした、協働・共創のまちづくり」としまして、まちに住み、働き、活動・滞在する様々なひとや事業者、まちづくり団体、行政、こうした多様な主体を相互につなぐ交流や協働・共創のチャンネル（場・関係性）をつくり、多様な力を活かし、まちの魅力・価値を高める多種多様な活動を育てるまちづくりを目指してまいります。

次に、「②区民や事業者など地域主体でまちを育てる」では、区民や事業者、まちづくり団体が主体となって、地域主体でまちの管理運営を促進し、快適で魅力的な環境の創出や美しい街並みの形成、安心・安全な地域づくり、伝統・文化の継承、ブランド力の形成を図ってまいります。

次に、「③地域の潜在力を活かすまちづくり」としまして、まち・ひと・都市活動のデータのモニタリング・分析を通じて、例えば時間帯・曜日別に道路の使い方を変えるなど、都市空間や都市基盤の活用の可能性・柔軟性を広げ、まちの魅力創造や課題解決につながるような維持

	<p>管理・活用のための仕組みづくりを検討してまいります。</p> <p>次に、次ページになりますが、「④マスタープランの進行管理」としまして、都市計画基礎調査等のタイミングにあわせて、マスタープランに基づくまちづくりの成果を定期的に評価し、課題分析を通じて、適時適切に取組みの改善を行ってまいります。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
委員長	<p>5章と6章の骨子について御説明をいただきました。より皆さんの身近なところでふだん見てきている話かと思imasるので、いろいろ御意見があろうかと思imas。よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>1ページ目に地図があって、右に構想・ビジョンというのがあるんですけど、d-1、大井プレイス構想区域、これだけ何か難しい言葉が出ているんですけど、どこを見たら紹介というのが分かるんですか。</p>
委員長	<p>事務局、お願いします。</p>
事務局	<p>昭和六十年代だったかと思imasますが、もともとJRの社宅や車両基地を含めて一体的なところのまちづくりの構想、方針的を大井プレイス構想という形でまとめたものがござimas。現計画の中では、大井プレイス構想で描きましたパース的なところもお示ししているんですけど、この改定計画の中で、ほかにもいろいろ構想、方針等がござimasるので、どこまで載せていくか、御説明していくかということは今後検討していきたいと思imasますが、今まさに広町のJRのところでは新庁舎含めて計画が進んでいるところですが、エリア全体としては、大井プレイス構想というのがまだ残っているということで表現として出させていたいただいたというところござimas。</p>
委員	<p>言葉があるということは、何か紹介説明をやっておかないとまずいんじゃないですか。</p>
事務局	<p>そこは検討させていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。まだこれは骨子なので、本文に落としていったときに説明を加えるということはあると思imas。</p>
副委員長	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>各地域のことは皆様にお任せするとして、6章の7ページのところ、ちょっとあるんですけども、まず1つが、③のところは地域の潜在力を活かすまちづくりと書いてありますが、これまでのところで結構言っていることであり、ここで書かれているのはデータの活用ですよ。だから、これはタイトルも含めて、このマスタープランの現実とまちづ</p>

	<p>くりマネジメントの展開という、今まで言っていないことを書かないと駄目なんじゃないか。スマート化とか、そういうことを記載するんだったら、3番でタイトルを見直したほうがいいなというのと、あと大事なのが④なんですけど、前のマスタープランを今見ていないので分かりませんが、このマスタープランの進行管理というのは大体都市マスも書いているんですけど、本当に進行管理をちゃんとやっている行政はあまりなくて、やるんだったら、ちゃんとやるように書かないといけないと思うんですよね。評価指標の設定と書いていますけれども、これもいつやるかとか、何をどこでやるのかといった、江東区とかは目標値まで設定して、進捗管理のトップも作って、それは発動して動いているんですね。だからそういうことまでやるのか。ただやりますという、いわゆる古いタイプの都市マスで記載するだけなのか、どっちなのか。できるのであれば、防災まちづくりとか質の高いということがすごい大事だとおっしゃっているんですから、そうだったら、その評価を何でやりますとか、もうちょっとここを記載しないと、とても、ただ書いただけという感じがするんです。下の図の一番下に住宅マスタープランとしての見直しという、これは何となく浮いている気がするんですけど、そういった細かいところをもう少し見直しをしていただいたほうがいいかなと思いました。</p>
委員長	<p>以上です。 今の進行管理のところはどうお考えですか。</p>
事務局	<p>本日は骨子という形でお示しさせていただいて、今のこの8ページの中で、東京都が行いますまちづくりに関する基礎調査、これは5年サイクルで行われているものがございまして、これから行われるというところで、その調査結果に基づいて、具体的な指標をしっかりと変化を捉えながら定めていきたいというところです。サイクルは、骨子として書かせていただきましたが、素案の中ではもう少し具体的にこの辺の記載をしていきたいというところで考えております。</p>
委員長	<p>今の御発言をもう少しここで考えると、例えば評価組織をつくるのか自己評価をするのかというあたりはどうお考えになっていますか。</p>
事務局	<p>今のところ評価指標を作る、自己評価という形で考えているところですが、他区の事例を今御紹介いただいたものも含めて、十分受け止めて、最終的な作り込みまでの段階では検討していきたいとい</p>

<p>委員長</p>	<p>うふうに考えております。</p> <p>多分どこでも、一時期大流行したPDCAサイクルを回しますというよりは多少踏み込んでいるとは思っているので、まだましかなどは思いますが、具体的に何をどういうふうにやっていくかというあたりまで書けるといいかな。書くと自分たちの首締めますから、そこはちゃんと覚悟を決めて書いていく必要はあるかなとは思いますが。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>大井地区のところなんですけれども、左ページ、左下の広町の再開発イメージとありますね。俗に広場だという形ですけども、今も7月中旬から暑くなって、9月も多分暑いでしょう。10月の頭ぐらいまで暑いと思います。昨今の気象状態からいったら、ここの4か月間ぐらいは、こういう広場は日中、人っ子一人いないみたいな、誰も憩いのというようなイメージでは過ごせないものになってしまうと思いますので、せめて、セントラルパークとは言いませんけども、区役所と一緒に、そういう考え方からいうと、大胆な都市公園レベルぐらいの公園を造っていただけたらなというのを切に思います。</p> <p>先日、公園課の方にお話をお伺いできたんですけども、公園は、最近ですけども、接している住宅地の方から反対があるんですよと。植える木の種類にしても、常緑樹にするのか、葉っぱが散るものにするのかとか、いろんな意見があって、なかなか住宅街に公園を造るというのは難しいというお話もお伺いしました。ですから、なおさら行政のほうでおやりになるのであれば、すばらしい公園をぜひ造っていただきたいなと。希望意見です。</p>
<p>委員長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。確かに暑さの考え方は大分変わってきていますので、おっしゃるとおりだなと思います。よろしく願います。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>先ほどから子どものこととか子育て家庭の記述を増やしたらいいんじゃないかというお話もありまして、私自身も1歳と2歳の子育てをしながら、他区から品川区に移住してきた一区民としての意見を御参考までに発言させていただければと思っております。</p> <p>例えばなんですけれども、6ページ目の八潮地区の公園・児童遊園等の改修整備というところで写真、掲載いただいているんですけども、</p>

<p>委員長</p>	<p>これは個人的な意見かもしれませんが、品川区は公園が大変充実しているなど魅力的に思っております。具体的には、ゼロ歳児から小学校まで幅広い子どもたちが遊べる遊具が充実していることですか、例えば東品川海上公園のミッフィーのキャラクターを用いたところだとか、恐竜公園だとか、様々なモチーフを、特徴を前面に出した多種多様な公園が充実しているなど思っております。例えばこの1枚の写真も、もっと魅力的な遊具を写真で掲載するとか工夫すると品川区のよさがアピールできるかなというふうに思ったりしました。</p> <p>この都市計画マスタープランで、方向性として他区からの移住促進につながるよというストーリーで作られるのであれば、そういったところを工夫されると非常にいいのかなと思いました。</p> <p>私の住んでいる近くで、ほかにも、城南小学校が最近リニューアルされて、見た目がとても、歴史だとか伝統を感じつつ、新しい時代にも融合されたような屋舎が魅力的に思っております、小学校とかもうまく掲載できると品川のよさが伝わるかなと思いました。</p> <p>一意見ですが、以上になります。</p> <p>ありがとうございます。褒められました。もっといいところをアピールしたほうがいいと。その辺りは本文にしていくときに、十分に御意見として取り入れていけたらいいかなというふうに思います。これは八潮地区に限ったことではない話かなと思いますので、お願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかに。</p> <p>品川区のほかの区にない大きな魅力というのは、今回これを見て分かるように、水辺なんですよ。都市だと水辺というのはなかなかないんですけど、品川に住んでいると、本当に水辺というのは物すごいポテンシャルを秘めているということで、実際に今回、地区のところを見ても、水辺の絵はいっぱい書いてあるんですよ、どこの地区も。私、観光協会なので、いつも水辺に関しては、にぎわいという観点から、いろいろ水辺の活性化をお願いして、区も本当に水辺に対してにぎわいというものに物すごい力を入れていただいている、それは本当に感謝しております。</p> <p>ただ、今回、やはり強靱なまちというところとリンクしてくるわけですが、各地区の書き込みで、防災の拠点としての水辺。本来は、水辺というのは、東京の水辺に関しては防災の拠点なんです。それから、</p>

	<p>にぎわいのところはかなりいろいろ書き込んでいただいているんですけども、品川区もこれから強靱なまちの観点から、水辺空間を防災の拠点としてあるんだよということを、もう少しその部分を力点を入れて書かれてもいいんじゃないかと思います。震災が本当にあったときに陸路が駄目になれば、何らかの形で水辺というのは大きな原動力になりますし、東京都も当然、整備計画で力を入れているし、品川区も水とみどりの条例なんかでも、どちらかという防災に力を入れているわけじゃないですか。ですから、マスタープランというのは、都市計画のほうで防災に力を入れるんだよということを少し書き込んでいただければと。</p>
<p>委員長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。今のお話聞いていて思ったんですが、この地域別の骨子を見ると、前半で議論したこのマスタープランの大事なポイントは何なんだろうかというのが、結構かすんでいるような気がします。強靱なというのは、あまり出てこなくなっちゃっているし。だから、その辺りをうまく一貫してちゃんと地区まで下りていくというような作りをもう少し考えたほうがいいかなと思っております。強靱を追記するような。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>八潮地区の件で、この文章を見ると、例えば地区のまちづくりの目標のところ、「質の高い水辺空間」云々というようなことで記載されているんですけども、居住者としては、あまりそこにぴんとこないかなという気がします。どちらかという、緑豊かなというほうが、八潮に住んでいる人間としては、そっちが強いのかなというふうに思います。</p> <p>全体的に言うと、八潮地区ということで一くくりにされているので、いわゆる居住地である5丁目とそれ以外のところというのは、ちょっと環境が違うのかなというふうに思いました。</p> <p>また、ここの中にも書いていますように、「誰もが住みやすい次世代の良好な住環境が整った八潮」と書いてありますが、御多分に漏れず、八潮は非常に高齢化が、65歳以上が既に37%に達してしまっていて、人口もどんどん減っていると。今月ちょっと上がりましたけど。そういった中で、高齢者の方、住んでいる方が低層住宅に転居されるというケースが非常に多い。そういったところを考えると、決してこれは住みやすいというような、高齢者にとっては住みにくいということがあるのか</p>

	<p>なというふうに思っています。</p> <p>それからもう一つなんですけど、八潮団地のまちづくりのイメージで、こういうにぎやかな、これは運河のところを書いているんだと思うんですが、こういうのは正直言って、見たことありません。こういうイメージで書かれると非常に、それで水辺なのかなというふうに思いますので。できれば八潮地区については、居住空間と、それからそれ以外のところというふうに分けられたほうがじっくりくるのかなというふうに思っています。交通の大動脈であるというのは大井ふ頭を抱えていますので十分承知していますし、新幹線基地もありますので、そういったところをちょっと配慮されたらどうかなと思います。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。その辺はお住まいの方の実感としてやっぱり。全体から見ると八潮地区なんでしょうけれども、その中でかなり違う性格のものが同居していることになっているので、うまく書き分けていっていただこうと思います。ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ちょっと質問を2つさせていただきたいんですけども、将来、新庁舎に移転されて、大井町駅というのがますます注目されると思うんですね。当然、大井町駅の東口は新庁舎に向けて立派になっていると思うんですけど、西口の以前からある密集している飲食街、東口と西口で格差が出てしまうような、5年後、10年後、西口に向けて何か策を打たれていっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>今、JRも新庁舎も含めて計画を進めていますが、駅の反対側の路地が細くて飲食店が密集しているようなところのお話だと思います。東小路のところのお話だと思うんですが、区のほうでは、大井町について、まちづくりのビジョンを、今計画を進めているところも含めて広い範囲でエリア設定をしておりますので、その中で方向性ですとか考え方というのはお示ししているところです。地域の方ともいろいろ意見交換をしながらですね。ただ、そちらのほうの東小路の辺りの密集しているところの地域の方のほうではいろいろな検討会などをなさっているというのは聞いていますが、地域のそうした機運を区としては支援をしていきたい。まちづくりに向けた勉強会ですとか、そういったしたところを今のところは支援していくということで、計画の中に、あの辺の地域のことをどう書いていくかというのは、骨子から素案の段階で</p>

<p>委員 委員長</p>	<p>いろいろ考えたいと思います。 分かりました。 よろしいでしょうか。 ほかにいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>なければ、私から。それぞれの地区の図がありますけれども、白いところはどう考えたらいいかというのが気になったんですが。全部を塗り分ける必要は全くないとは僕も思うんですけども、白いところは何もしないのかなという気にもなったので、この辺の表現の仕方をどう考えていったらいいかというのは今後の課題かなとは思いますが、そこに住んでいる人にとっては、ああ、何もなくていいんだと思う人もいれば、区は何もしてくれないエリアなんだと思う方もいらっしゃると思うんですけども、そういうところをどう考えたらいいのかというのは、何か今の段階で考えていますか。</p>
<p>委員長</p>	<p>地区ごとで、エリアごとで全て、この地区で実際に整備するのは難しいかなと。今後10年間の計画ということになりますので。ただ、色が塗っていなくても分野別でいろいろな取組をしている中で、それぞれの地区で対応していることに、色が塗られていないところの取組も行っていくわけなので、今委員長のほうから御指摘いただきましたので、分野別で色をつけていないところをどう表現していくかというのは、それぞれで書くというのはちょっと難しいかなと思うんですが、一括して何か区域の方に分かっていただけのような工夫を考えたいと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>あんまり複雑になると逆によく分からなくなってしまうので、簡潔に伝わる方がいいかなとは思いますが、例えば地区別だけ、自分が住んでいる地区の絵だけを見たときにどう考えるかという見方をしてみるといいかなと思いますので、よろしく願いいたします。 ほかはいかがですか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>すみません。各地区のエリアごとなんですけど、色が青くなっているところは何か意味があるのかなというのと、それからあと、せっかく6つの分野別のまちづくりと連携というのを、前の改定素案のほうにあるんですが、それと地域別市街地のところの関係みたいなもの、もう少し説明があったり、それとやっぱり浮いているなと思うのが、新たに付け加えられたという話なんかも、どう関係してくるかがよく分からないので。その辺り、ただ羅列的に1番、2番、3番とかというのが、例</p>

事務局	<p>えば今、私、3 ページの大崎駅周辺についていますが、各エリア別に1 から6 までとか1 から3 などでとか書いてありますよね。これを例えれば強靱なまちとか、その番号と連携させるとか、もう少し手を加えたほうが分かりやすいかもしれないなと思いました。</p> <p>資料の一番上にも書かせていただきましたが、黒字が現行計画から継承しているところと、新たに記載させていただいたところは青字で書かせていただいたというところがございます。</p> <p>それから、今御指摘いただいた地区別の取組と前半の分野別との関わりといたしますか、関係性的なところの見せ方については意見いただいて、事務局としても検討してまいりたいと思います。</p>
委員長	<p>よろしいですか。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私のほうからは第6 章についてですが、まず軽微なことにはなるんですが、先ほどの御意見を聞きまして、そこの薄い茶色とか茶色のマークと、また白抜きがあったりとか、この点は、先ほども委員長が最初に言いましたカラーバリアフリー、カラーユニバーサルデザインという点をお含みいただいて、視覚障害の方にも対応した見やすい配色ということを御検討いただくとよいかという印象を受けたところです。</p> <p>もう一つは、1、2、3 と、おおむねこうったことが書かれるんだろうなというふうに思われる内容ではあるんですが、一方では、これは品川区ということだけでなく、ほかの区でも対応ができてしまうような内容でもあるというところが、もう少し区としても取組を何か出す必要があるのではないかとというふうに感じたところです。</p> <p>例えば①番について、ここは「ひとの力」を活かす、区民や何たらの力を活かすといったことだと思うんですが、今までの品川区さんの取組で特徴的なことがあるのではないかと思います。例えば先日、インクルーシブデザインの観点からの公園整備ということで一度見学させていただいた区の公園があるんですけども、そこでもユーザー参加、住民参加で、非常に成果としても、十分反映されたような公園整備というものを御案内いただいたと思います。ですので、そういった多様な力を活かすといっても、具体的どのように活かしてきたのか、ないしは、今までの経験、実績をこれから10 年、さらにどういうふうに活かすことができるのかといったところを、そういった区ならではの情報をもう少し載せていくと、ここに掲げられていたことが、区の特性も載せなが</p>

<p>委員長</p>	<p>ら示していけるのではないかというふうに思った次第です。</p> <p>ですので、②にそういったものを、まちのブランド力、そういったことでも、育てるといことは重要だと、キーワードだと思いますが、それなりの実績プラス、その実績を踏まえたこの10年での方向性、ないしは可能性といったことを載せてはどうかなというふうに考えたところでございます。あくまで一参考意見としてお受け取りいただければと思います。 以上です。</p> <p>ありがとうございます。確かに今の御意見を聞いていて、この6章は、こういう章は必ず都市マスの際にくっついているんですが、これまでどうやってきたというふうに振り返りをしている自治体はあまりないですね。見たことないかもしれない。だから、やっぱりこれまで、前のマスタープランから10年でいいと思うんですが、10年間でこのまちづくりの進行管理とかマネジメントに関わることで、区としてはこういうことをやってきましたということをやちゃんと総括して、さらにこれからの10年でこうやっていきますということを書いたほうがいいかもしれないですね。今御紹介いただいたような事例もあるようですから、今までやってきたことをしっかりとまとめておいたほうがいいかもしれないです。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>はい。検討させていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。お手は挙がっていますか。よろしいですか。</p> <p>それでは、この5章、6章については、また今日の1から4章と同じように、今後具体的な素案として文言がもう少ししっかりと作られていきますので、またそのときにしっかりと御議論いただければよろしいかなというふうに思います。</p> <p>全体として何か言い残したことがあれば。よろしいですか。後日、事務局に言っていただいてもいいと思いますので、思い出したこととか、家に帰る途中、ぱらぱら見ていて、気がついたことがあれば事務局にお伝えいただければというふうに思います。</p> <p>それでは、今日の審議事項は以上になりますが、事務局から事務連絡がありましたらお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は活発な御議論、御意見いただきましてありがとうございました。</p>

	<p>本日、机の上にてお配りさせていただきましたが、改定検討の今後の予定でございます。本日、1章から4章の素案並びに地区別の骨子案を示させていただきましたが、この内容を全てではないんですが、パネルにして記載の日時、日程、オープンハウス型の説明会を実施したいというふうに考えてございます。基本的には、周知方法を書かせていただきましたが、広報しながら、それから説明会の周知のチラシも作っておりますので、記載のところに配架させていただきたいということで、会場の設定につきましては、より多くの方が集まる区民公園のパークセンターであったり、区役所、オープンハウス説明会のパネルを見に来た以外の方、別の目的で当然、区役所のほうにも訪れていただいておりますので、そうした方々が立ち止まって見ていただけるように、より多くの方が集まっていたらいいような場所で行っていききたいというところがございます。</p> <p>本日いただいた御意見並びにこうした説明会でいただいた御意見等も踏まえながら、次回の改定委員会でございますが、約2か月後の10月27日、午前10時から第5回の改定委員会という形で開催させていただきたいと思っております。その後、12月頃にパブリックコメントを実施していきたいという予定でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
委員長	ありがとうございます。何かこのことで御質問ありますか。
事務局	このパネルになるものは、骨子レベルぐらいの話ですか。
委員長	そうですね。より、できるだけ内容が分かるような形にはしたいんですが、骨子ぐらいのレベル感だと思います。ただ、前半のほうの素案のほうについては、もう少し書かせていただくような、展示させていただくような形にします。
事務局	はい、分かりました。ちなみに、この委員会資料はホームページに公開しているんですけど。
委員長	公開してございます。
事務局	じゃ、見ることはできるんですね。今日の素案とかをいずれアップされていく。
委員長	はい。
事務局	はい、分かりました。
委員長	では、こういう形で区民の御意見を聞く。パネル作るんだったら、ホームページ上でも意見もらったらいいかなと思ったりするんですが、

<p>事務局 委員長</p>	<p>いかがですか。</p> <p>検討したいと思います。</p> <p>いろんなメディアを使うというのも大事だと思うので。コロナでなかなか外に出たくないという方もいらっしゃると思うので、家にいながらにして、見て、御意見いただくというパネルも作ったほうがいいかなと思います。さっき言った、よその自治体は、本当にコロナが大変な時期に策定作業をしていたので、職員さんが説明の動画を作ってアップして御意見をいただくということもやっていましたが、今そこまで行動制限を取られていないのでやる必要は必ずしもないかもしれませんが、そういうのもあるかもしれないので。やっぱり今までどおりの市民の御意見を聞くチャンネルだけでいいと思わないほうが多分いいかなと思います。いろんなメディアを使って行政も情報発信をして、意見をもらうということは大事かなと思いますので。この9月の段階でやれという話ではないですけども、ぜひ今後の御検討を期待したいというふうに思います。</p> <p>それでは、時間も迫ってまいりました。本日、様々、貴重が御意見をいただきました。具体的になってくればなってくるほど、いろいろ言いたいことがいっぱい出てきますので、次回も引き続きよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>これをもちまして、本日の第4回品川区まちづくりマスタープラン改定委員会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。</p>
--------------------	--